

日本SOD研究会報

特集 丹羽療法 治療レポート

民間療法 どう見極める

それひとつだけ、というのは危険 科学的根拠のないものは要注意

発行元 日本SOD研究会 藤沢
住 所 〒154-0012
東京都世田谷区
駒沢 5-13-1-205
TEL. 03-5787-3498
<http://www.SOD-jpn.org/> SOD

民間療法には、様々なものがあります。それこそおばあちゃんの知恵袋のようなものから、アロマ、フラワーレメディ、気功、太極拳、ヨガ、漢方医、さらには靈感療法まで、ありとあらゆる「身体にいい」「病気が治る」を謳うものがあふれています。

民間療法とは様々な受け取り方のある言葉ですが、俗に、医師、その他の国家資格取得者（柔道整復師、鍼灸師、按摩指圧マッサージ師）以外の民間資格取得者が行なう療法のことを指します。（法律上は民間療法の事を総じて療術と言います）

丹羽先生は以前から、それら民間療法、そして、西洋医療ではカバーしきれない分野をカバーする代替療法に関して、ひとつの警鐘を唱えています。今回はその警鐘を具体的にくわしくうかがってききました。

今の医師の診療に疑問を感じていたり、自己流でいろんな健康補助食品を試している人、他人からいいよと勧められたり、ブームになると乗りやすい人。あまりにも多くのものが市場に出回っていて、選択できない人。皆さんどこかに当てはまっていますよね。今回のテーマはすべての人のためになるお話です。

口コミや噂ではなく 臨床結果のあるものを

——民間療法について、先生はどのようなお考えをされているのか、また、私たちが利用する場合、どのようなことに気をつけたらいいのか伺いたいのですが。

「民間療法というのは、まあ、ほんとうにたくさんある。なかには少しは効くものもあるけれど、まったく意味のないものもたくさんある。そんななかで気をつけたいこ

とは、ひとつだけしか、それしかやらないというのは注意しないといけない。確かに効くものもある。しかしそれらは、病気が治るために一〇〇点の数字が必要だとしたら、一個が10点分効くだけなんだ。ほとくの薬でも、あるがん患者が治ったとする。そのためには、尿療法をやり、元気になる強肝剤やビタミン剤が入った点滴をやり、遠赤外線のマグネー石の風呂に入って血液の循環を良くし、細胞の活性化を高め、SODで活性酸素を落とし、リンパ球療法、気功もやる。あと、呼吸法、太極拳もいい。それぞれは10点だが、10個やれば一〇〇点になる。そうやってやると治るものなんだ。僕のところは日本だけでなく世界中からいいというものを集めてきて治療に使っているんです」

——民間療法で、それだけでがんが治ったというような噂、口コミ

はよく耳にします。また、そういった本もたくさん出回っていますよね。でも、ひとつだけではダメだと。「そう。民間療法のいかんところは、例えば気功だけでがんを治してやる、リンパ球だけでがんを治して



やると言われて、うちからも流れて行く人がある。それで治ったという人の話を鵜呑みにしてしまう。ワラをもすがる想いは分かるが、安直すぎる。こんなにくさんの人ががんで亡くなって行く時代に、

たったひとつの治療法だけでがんは治るものじゃない。もしも治ったというのなら、それはたまたま軽いもので、なにもしなくても治っていた程度のものでいいんです。僕らは、とにかく最高のものを、それも、口コミや噂でいいと言われてるものではなく、ちゃんとそれぞれ検査された、臨床結果の出ているものを集めて使っているんです。いろんなものを統合して初めて結果が出るものです」

——統合医療ですな

「うちでは最近、悪性のリンパ腫も10人中8人は僕の薬で治っている。残りの2人も、ひとり僕は僕の薬に加えてステロイドを投薬し、あとひとり、一番軽い抗がん剤で、ペプシドというのを投与する。これは髪の毛も抜けまいし、ご飯も食べられる。これが統合医療なんです。西洋医学のいいところをちよつとだけ持ってくる。とこ

ろが、漢方医などによつては肺炎を起こしている患者さんに、抗生剤は副作用があるから使うなといって、死なせてしまう。民間療法にはそんなものいっぱいあるんだ。肺炎を起こして抗生剤を使わなかったら原始人に戻ってしまうよ(笑)。ペストや天然痘が地球上からなくなったのも化学薬品のおかげなんだ。バツタの大群が発生するたびに流浪の民を繰り返し、飢え死にしくなくてもよくなったのも殺虫剤のおかげなんです。ひとたびバツタの大群が発生したら、ペストが発生したら、やっぱり化学薬品は使わなければいけない」

——両方をうまく使うことが大事なことなんですな。

「統合医療とはそういうことです。今の日本の間違っているところはそこじゃないかな。情報量が多すぎて、あれがいいというところとみんながこぞってそつちへダーッと流れ

て行ってしまう。効かないとなると次、次と走る。ひとつのことだけに走り、しかも30万円、40万円という高額なものを買い続ける。水もいいんですよ。悪い水を飲むよりはいい。しかし、それだけでは、ある程度の健康は維持できても病気や、がんは治らない。あくまでもOne of them (ワン・オブ・ゼム―多数の中の一つ)ですよ」

がんはたった一つの 治療法で治るほど 甘いものじゃない

——でも、いいもの、そうでないものの見極めが私たちには難しいですね。

「さっきも言ったが、科学的根拠のあるものを使わないといけない。口コミだけではなく、なぜどうしているのかが明確になっているものを使うことだ。僕も昔はマグネー石は使わなかった。それは、どう

してこの石がいいのか確かめられなかったから使わなかった。そこで実験をしてみたんだ。細胞を入れた試験管の周りに石を置いて、細胞がどうなるか見てみた。そして細胞が動き出したんだ。そういう実験を繰り返して、本当に石が細胞に働きかけていることを確認できたから使い始めたんだ。だから、ある程度、科学的根拠があることを確かめないといけない。

馬の骨か牛の骨か分からないようなものを持って来てもだめなんですよ。いつも『なんでこうなるんだろう、なんで?』という疑問を持つようにしないといけない。よくわからないけどいいらしい、ということだけで使っているようでは代替療法も進歩しない。代替療法をやっている医師ももっと勉強しないといけない。僕らなんか、どんなものもすべて実験経過を見る。金沢大学でがん細胞を培養し

て研究していた教授がいて、定年退職したのでうちの研究所に来てもらったんだ。今も、僕が作ったあるがんの新薬を実験している。正常な細胞とがん細胞を入れたところに新薬をいくつか入れてみるわけだ。がん細胞の発育をなるべく抑えて、正常な細胞の発育を抑えないようなやつを選り分けていくんだ」

——そんなことができるんですか。すごい。

「僕はそういうことを繰り返しているんだ。例えば薬がA、B、C、D、Eとあるとすると、それらのなかでAとB、AとC、AとD、AとE、BとC、BとD、BとEというようにいろんな組み合わせでやってみたらどうなるかを見ている。そのなかでどれだけががん細胞を抑えて、正常な細胞を抑えないかを見ている。今回の出発の直前まで研究室で見えていたら、A・Eの組み

合わせがいいことが分かったんで、さっそく処方してみるように指示して出て来たんだ。そうやって日々、僕の生薬を使った新薬は開発され続けているんです。これには相当のお金と時間がかかる。それがあるから私の薬は効くわけだ。たゆまぬ基礎研究の結果なんだな」

——A・Eが試験管の中で効いたからといって、患者さんにも個人差があるからこれは途方もない研究ですね。ある種、マイ生薬ができてしまうんですね。

「そうなんだな。こっちに効いてもあっちに効くとは限らない。もう、永遠に研究につぐ研究なんですよ。

◆丹羽先生診察ご希望の方は
御紹介、御予約いたします。

丹羽メディカル研究所

☎0120(731)175
もしくは

日本SOD研究会

☎03(5787)3498

まで お電話ください。

それをやらないと代替医療の信頼は獲得できませんよ」

——とにかく消費者もよく調べないといけないということですね。

「本当に。医者の中にもいいかげんなのがいるんだから。食事療法で有名になった医者がいる。数年前に大会のようなものを派手にやって、がんが治ったという人を壇上に上げて体験談を話させていたが、あそこの患者さんもよくうちに流れてくる。壇上に上がった人のカルテを見たら、誤診か放っておいても治る人ばかりだった。だいたいが、がんというのは、そんな食事療法だけで、たったひとつのことでだけで治るほど甘いものじゃないんだ。みんなそんなことにひっかかる。これでは西洋医学の人たちにはバカにされても仕方ない」 ■



SOD愛飲者 インタビュー

突然の血尿——再発くりかえす膀胱ガンがピタッとどう考えてもSODしか……

泉 サキさん 68歳 女性

新潟にお住まいの泉サキさんが尿に異常を感じたのは4年前の平成16年のこと。

「ある日、突然、血尿が出たんですよ」

60歳を過ぎてても比較的、健康体できたサキさん。周囲の友人は腰が、足が、頭痛が、神経痛がといったは病院通いをしているなか、これといった病気もなく、みんなからうらやましがられていたくらいだった。だから、血尿を見た時は、とうとう自分も何か大変な病気になったのかもしれないと、あわてて病院に行った。

「尿、血液、CTスキャンなどいろいろ大げさな検査をされまして、結果、やっぱりガンだと言われました。ただ、初期の膀胱ガンなので、

内視鏡で取り除く手術をすれば大丈夫だと言われました」

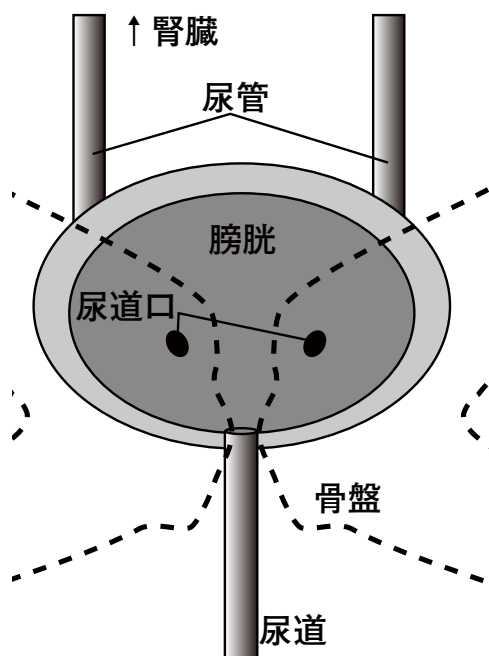
膀胱というのは骨盤内にある臓器で、腎臓で作られた尿を尿管を経由して一時保管する袋の役割を持った臓器。そこに溜まった尿で膀胱が伸縮することで尿意をもよおし、排尿するわけです。膀胱ガンはその袋の内側にできるもので、尿に血液が混じっていたら、たい

ていはまず膀胱ガンが疑われるとか。サキさんの場合もまさにそれだった。

「ただ、膀胱ガンの場合、手術で取り除いても、別の臓器への転移はないらしいのですが、同じ袋の他のところにもまた出来ることが多いと言われ、半年に一回の検査を必ずすることが必要なんです」

そうして半年後に検診をしたところ、やはり新たなガンができていた。ただ、先生によると、まだ切除しなければならぬほどではないから、しばらく様子を見ようということだった。

60代過ぎの血尿は要注意



膀胱ガンは、男女とも60代を過ぎる頃から急増している。初期に見られる、痛みを伴わない血尿は数日で治まっても、診察を受ける必要がある。

「でも、取れるものなら取っておいたほうがいいですね。私、恐がりですから、とにかく取ってくれと言いました」

1年の間に3回、検診のたびにガンが見つかり、3回内視鏡手術をした。サキさんは思った。このままこの調子で毎回、ガンが見つかったら取ることを繰り返して、そのうち膀胱を切らなきゃいけなくなり、他の臓器に移していくのではないかと。検査にいくときは不安で逃げ出したくなり、気分が晴れる日はなかったとか。そんなときに、家に一通のパンフレットが届いた。サキさんの家は理容店を営み、そんな関係から店にはいつもいろいろなパンフレットが届く。そのなかのひとつがSODだった。他のパンフレットに比べ、地味な体裁で、大げさな宣伝文句がないことが逆に気になり、冊子を読んでみた。

「読み進むうちに、ガンの患者さんの体験談などにも信憑性があるし、ガンだけでなく、あらゆる病気のもとを考えて、免疫力をつけるというのも納得できたので、試しに飲んでみようかなと思ったんです」

今思うと、不安から、とにかくいろんな情報を知って、なんとかしたいと必死だったというサキさん。平成18年の2月から、1日4包のSODを飲み始めました。そうして半年後。

「定期検査をしたんです。そして、無いんです。毎回、検査のたびにできていたガンが、このとき初めて、できていなかったんです。まさか、こんなに早くSODが効いているなんて、半信半疑でした。でも、どう考えてもSODしかないですよ」

以来、これまでに5回の検査すべて異常なしという結果。

「もう、嬉しくて嬉しくて。以前は

検査に行くのが不安で恐かったんですが、今は楽しみになりました」

明るく笑われるサキさん。元気になることや周りの方達にもSODを勧めたくなるのは、愛飲者の方の共通の心情。

「実は、同じ歳の知り合いの方が、やはり私と同じガンになったので、おせっかいかと思ったんですがSODのことを話して、冊子をさしあげたんです。でも、あまり興味を持っていただけだったんです。そうしたら、先日、亡くなられて、残念です。これは本当にみなさんに勧めたい、いいものだとか分かっていても、気づくか気づかないか

は運だなんて思います。私は運が良かったんです」

それだけではないはず。サキさんの好奇心旺盛で前向きな姿勢がSODとの出会いにつながったのだと思います。

「いまもう中にはいろんな健康食品のチラシやパンフレットが送られてきますが、もう、他のものは一切見ません。すべては病院での早期発見とSOD様食品のおかげだと確信していますから、一生、飲み続けます」

力強いお言葉。その強さが健康の秘訣かもしれません。

SOD様作用食品 体験者の声をお聞かせ下さい。

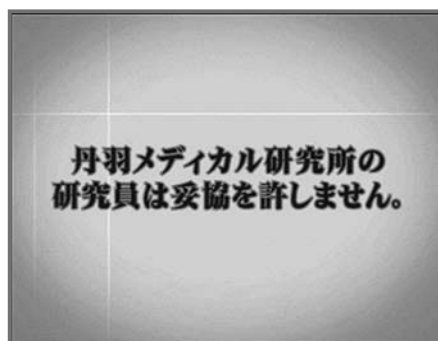
難病で苦しんでいる方たちが少しでも早くいい治療法に行き当たるように、本誌では愛飲者の声を募集しています。お手数ですが、

〒154-0012 東京都 世田谷区
駒沢 5-13-1-205

日本SOD研究会 藤沢宛

TEL 03-5787-3498

までご一報ください。



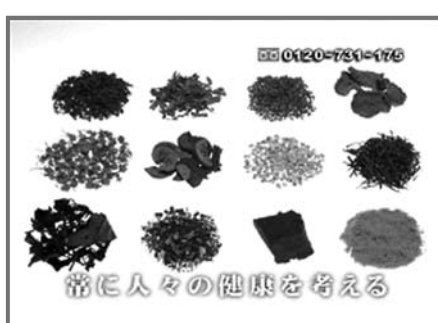
丹羽先生の開発されたSOD様作
用食品の販売元であり、丹羽療法に
欠かせない商品を研究開発している
丹羽メディカル研究所のテレビCM
が、この11月から始まりました。



毎週1回、火曜日の午前6時前、
TBSの「みのもんたの朝ズバッ！」
のなかで放映されています。関東地
方だけの放映ですが、丹羽先生を始
め、住先生、長瀬先生という丹羽



療法を担う先生方も出演されていま
す。SODが少しでも多くの方の
健康に役立つようにという願いを込
めての映像です。機会があればぜひ
ご覧になってみてください



SOD様作用食品とは・ 丹羽博士の開発

SODとは、スーパーオキシド・ディスムターゼの頭文字をとったもので「活性酸素」を取り除く「酵素」のことです。

最近、健康の力を握る物質として「活性酸素」と「SOD」の働きと役割がクローズアップされてきました。そして、活性酸素が体内に増加すると、がんや成人病など、さまざまな疾病を引き起こすことが明らかになってきました。

体内に活性酸素が増えても、本来、人間や動物には余分な活性酸素を取り除くSODという酵素が



存在していて、病気を防ぎ、身体の健康を守ってくれます。ところが、現代社会の弊害（公害、薬害、食品添加物の害）などが、活性酸素を暴走させていて、体内のSODだけでは追いつかなくなっています。

しかし、残念なことにSODという酵素は分子量が大きいために内服しても胃で破壊され、腸から吸収されませんでした。

それを、内服できるように研究されたのが丹羽SOD様作用食品です。

開発した丹羽耕三医学博士は、京都大学医学部を卒業し、医学博士として数々の研究が注目を集めていたときにご子息を白血病で亡くされ、それをきっかけにSODの研究を始めました。副作用がまったくないがん治療薬、がテーマでした。

開発には実に二十年もの歳月が必要でした。

「活性酸素をはじめとする免疫学の研究を通して私が知った、自然の摂理」は、私に大自然のメカニズムの精微さと人間の自己治癒力の偉大さを教えてくれました。病気は自分が治すもの。私は、この理想を患者さんの誰もが実現できるように医師の立場から最大限の努力を続けています」

先生は今も、土佐清水病院院長として、毎日、医療の現場でがん、アトピー、膠原病などの難病に苦しむ患者さん達の治療にあたっています。また、SODなどを始めとする論文は海外でも高い評価を得、日本のみならず海外の学会で講演をしたり、大学病院で特別講演をしたりと、多忙な日々を送っています。

幸いなことに最近、西洋医療と東洋医療などを統合した医療へと世の中の流れが向かっています。代替医療に対する関心や認識も高まり、丹羽博士が40年も前から言っていた、本当の意味での人を診る診療の時代です。

この会報は、そんな丹羽博士の志を受け、誰もが自分の力で健康でいられるように、難病で苦しむ方が少しでもなくなるようにとの願いを込めたものです

丹羽療法を知る一冊

◆ブックガイド◆

「がん治療 究極の選択」

講談社

「丹羽SOD様作用食品摂取者の体験報告」日本SOD研究会

「丹羽博士の正しいアトピーの知識」

廣済堂

「天然SOD製剤がガン治療に革命を起こす」

廣済堂

「白血病の息子が教えてくれた医者の心」

草思社

「安心の医療・本当の健康」

みき書房

「クスリで病気は治らない」

みき書房

「医は仁術なり」

至知出版

「丹羽療法全国のアトピー患者が信頼するこれだけの理由」

リヨン社

「SOD様作用食品の効果」

小冊子



あしたも元気 (No 108)

ウイルスに負けない
体をつくろう

寒くなり空気が乾燥する季節になると、風邪などにかかりやすくなります。

風邪は、主にウイルスの感染による鼻腔や咽喉の炎症性による病気で咳、咽頭痛、鼻水、鼻づまりなどの局所症状および発熱、倦怠感、頭痛などの全身症状のことを指します。

また風邪以外にもインフルエンザやウイルス性の胃腸炎などにもかかりやすい時期だといわれています。

風邪などひきやすい人とひきにくい人がいるのは日頃の食生活に大きく関係しているようです。毎日栄養バランスのとれた食事をきちんとし、抵抗力のある体をつくることでウイルスから身を守ることができます。

風邪の予防に必要な栄養素

ビタミンA

ビタミンAは一番最初に発見されたビタミンで、動物性の食品に含まれる「レチノール」と植物性の食品に含まれる「βカロテン」の二種類があり、それぞれビタミンAに分解されます。目と粘膜に重要な効果を果たすほか、がんの予防効果も期待されます。

ウイルスは鼻や喉、目から侵入しますがビタミンAは粘膜の形成にかかせない栄養素です。

不足すると粘膜が乾燥して風邪などのウイルスが侵入しやすくなります。

ビタミンAは主に緑黄色野菜に含まれています。(ほうれん草・ブロッコリー・小松菜・青梗菜にんじん・かぼちゃなど)

ビタミンAは脂溶性

ビタミンAは油に溶けた状態で吸収率がアップします。例えばにんじんでいうと、

※生……約10%吸収 ※おろす……約21%吸収 ※茹でる……約47%吸収

ですが、油で炒めると約80%の吸収率になります。生で食べるならドレッシングといっしょに食べることで吸収率が上がります。水に溶けないので水にさらしてもビタミンAは破壊されません。

ビタミンC

ビタミンC(化学名アスコルビン酸)は、壊血病を予防する水溶性ビタミンとして発見されたビタミン。主に果物などに多く、免疫力を高めて、風邪やがんの予防に効果があるとされています。

ビタミンCは、ビタミンAで防御しきれないウイルスに対する抵抗力を高める働きがあります。

また、ウイルスで荒らされた細胞の再生を回復するのを助ける働きがあります。

ビタミンCは肌のコラーゲンの生成を助ける働きがありますが、コラーゲンは皮膚だけではなく血管や器官、筋肉も形成しています。コラーゲンが不足すると抵抗力が落ちてしまいます。

ビタミンCは水溶性

ビタミンCは、野菜や果物などに多く含まれていますが、加熱に弱い性質をもっています。ただし、生野菜で摂ろうとするとカサがありますので、軽く炒めたりスープなどの形で摂取するほうがよいでしょう。特に、じゃがいもやさつまいもは加熱してもビタミンCが失われにくいのでおすすめです。

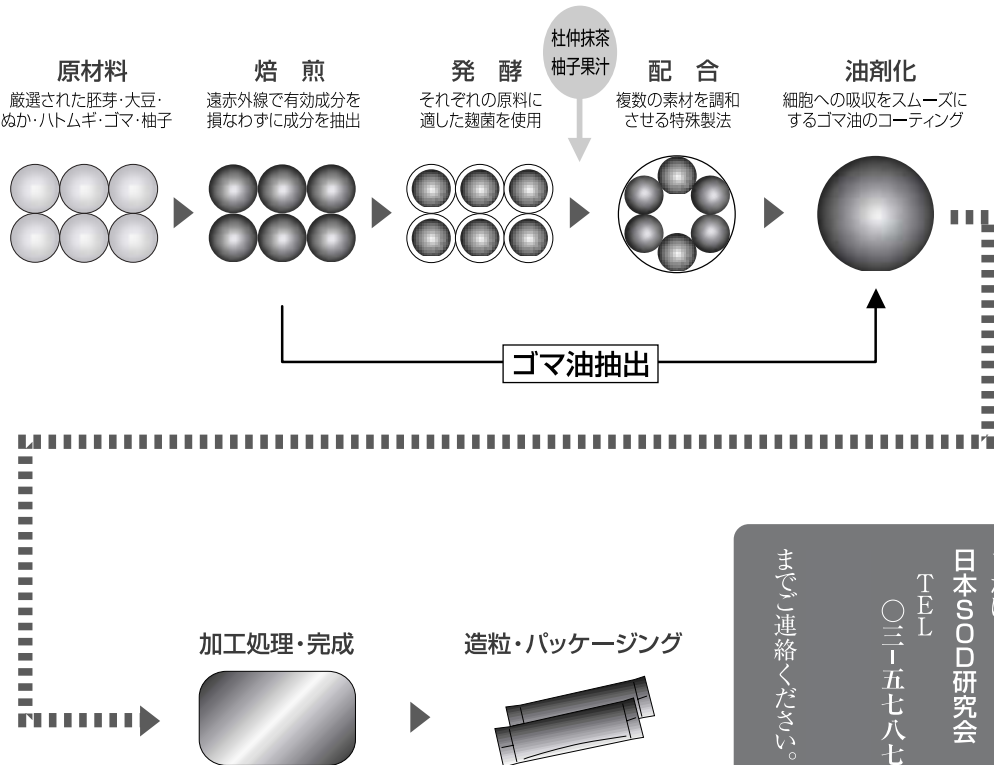
一日に必要な量は50mgですが1000mg(妊婦は1500mg)とされています。ただし、風邪かなと思つたら5〜10倍くらいの量が必要とされます。

●免疫細胞の生成にはアミノ酸が必要ですので、良質なたんぱく質を摂取しましょう。

●お茶には抗菌・抗ウイルス効果があるといわれているのでたくさん飲みましょう。また、うがいに利用するとより効果的といわれています。

●風邪をひきそうになったら、温かく栄養価が高く、消化のよい食事をしましょう。特にスープなどがよいでしょう。冷たい飲み物は避けましょう。

【栄養士 高橋広海】

SOD
様作用食品

バックナンバーについて

日本SOD研究会では、これまで発行した「会報」のバックナンバーを用意しています。様々な疾患と活性酸素の関係について掲載しています。

ご要望の方は、最寄りの取扱店または、

日本SOD研究会

TEL

〇三二五七八七―三四九八

までご連絡ください。